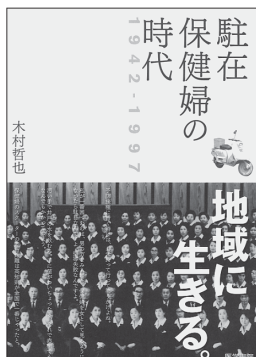


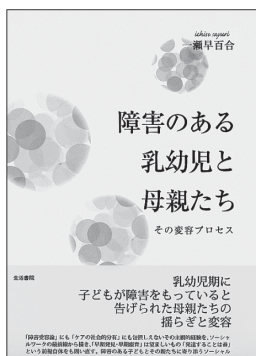
今月の3冊プラス1



駐在保健婦の時代 1942-1997

著：木村哲也 発行：医学書院 TEL：03-3817-5657
定価：2940 円(本体 2800 円+税 5%)

本誌で『「保健婦雑誌」に見る戦後史」を連載中の木村哲也氏が、日本の公衆衛生の戦時・戦後史を、「駐在保健婦」に焦点を当ててまとめた書。聞き書きをもとにした調査から醸し出される、臨場感のある描写が興味深い。近代化の象徴として、一方で「権力」として批判的に描かれる医療・公衆衛生の歴史を、ニュートラルに再構築する試みも込められた1冊である。保健婦駐在制が廃止されるまでの具体的な活動も豊富に紹介され、保健師の歴史を学ぶのにも適している。東日本大震災以降、保健師の活動が広く周知されていくなかで、あらためて駐在保健婦の活動の歴史を紐解いてみたい。



障害のある乳幼児と母親たち その変容プロセス

著：一瀬早百合 発行：生活書院 TEL：03-3226-1203
定価：3150 円(本体 3000 円+税 5%)

ソーシャルワーカーとして、20 余年にわたり「障害のある子どもをもつ家族にいかに関与できるか」を考え実践してきた経験を踏まえ、その途上で生じた疑問や違和感とそのなかで得た気づきを整理し、研究としてまとめた。著者の主観的経験を整理するなかで、これまでの「早期発見・早期療育」は望ましいという前提や「発達することは善」ということさえも問い直している。障害のある子どもをもつ親も、それぞれに「その人らしさ」「その家族らしさ」をもっていることを忘れてないで、その人固有の「その人らしさ」を大切にできるようにありたいとする、地域医療最前線にいる専門職必読の書。



ソローニュの森

著：田村尚子 発行：医学書院 TEL：03-3817-5657
定価：2730 円(本体 2600 円+税 5%)

雑誌『精神看護』2009 年 9 月号～2010 年 7 月号の巻頭にカラーグラフとして連載され、反響の大きかった「ソローニュの森」が美しい写真集になった。写真家の田村尚子氏がフランス・ソローニュ地方にあるラ・ポルド精神科病院の施設およびスタッフ、患者の様子を撮影し、連載で掲載した写真のほか、田村氏が過去に撮りためた同病院の写真も加え、関連のエッセイも追加している。病院と患者と、それらを取り囲む森の風景をみていると、そこに流れているゆったりとしたテンポが、時の経つのを忘れさせてくれる。《ケアをひらく》シリーズ異色の1冊である。



学校で教えてくれない「分りやすい説明」のルール

著：木暮太一 発行：光文社(光文社新書) TEL：03-5395-8113
定価：777 円(本体 740 円+税 5%)

「分りやすく説明できる人は頭がいい」という常識(?)に対して、分りやすく説明するには、ちょっとしたルールを学んで、トレーニングをすればよい、という著者の考えが解説されている。なぜ分りづらいのか、その理由を示し、自分にだけ分かる一人よがりな表現でなく、他の人に理解してもらえる、分りやすい表現ができるようになるためのコツが示されている。